

平成29年度大分県学力定着状況調査結果のポイント(小学校)

国語

知識	活用
51.5(+1.0)	51.1(-0.5)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域において、偏差値は50を上回り、正答率は目標値を上回っている。

□ 課題と対策

●言葉の決まりに関する設問において、目標値を下回っている。

→ 必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「修飾する」「引用」「要約」「要点」について子どもへ確実に指導する。

●言語活動に関する設問の正答率が低く課題がある。

→ 目的や意図に応じ、よりよい表現の仕方について考えたり、例えば友人の書いた文章に対し助言したりすることができるようにする。

算数

知識	活用
51.5(-0.9)	51.7(-0.7)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●全ての領域において、偏差値は50を上回り、正答率は目標値を上回っている。

□ 課題と対策

●「見通しをもち筋道を立てて考え、表現すること」に課題がある。

→ 児童生徒に、「見通しをもち筋道を立てて考え、表現する力」を身に付けさせるためには、日頃の授業の中で、『説明の基本形』を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせるようにする。

『説明の基本形(例)』

- ①考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。
- ②取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③答えにつながる計算や説明を行う。
- ④答え(結論)を導き出す。

※①～④に基づいた説明ができるように発達段階に応じた指導を行う事が大切である。
※説明を聞きながら、他者の足りない点(例えば①又は②)に気付くようにする。

理科

知識	活用
51.9(-0.2)	51.2(+0.1)

※()内は昨年度比

■ 結果概況

●「観察・実験の技能」以外の領域において、偏差値は51を上回っている。

□ 課題と対策

●観察・実験の結果から、読み取ったことを言語化し、考察・説明する学習指導に課題がある。

→ 視点を明確にしながらか観察・実験の結果を整理することを通して、共通点や差異点に着目しながら気付いたことを考察したり、話し合ったりする学習活動の充実を図る。

→ 問題解決の「縦」と「横」のラインを意識して、観察・実験の結果を考察し、「共通性」や「傾向性」を把握する学習指導の充実を図る。

「縦」のライン: 予想・仮説と観察・実験の結果を照らし合わせて考察すること。

「横」のライン: 学級全体や各班内において観察・実験の結果、データを交流・情報共有したうえで、概観して解釈したり、必要に応じて再度結果を分析したり、考察を見直したりすること。

平成29年度大分県学力定着状況調査結果のポイント(中学校)

国語

知識	活用
50.9(-0.4)	49.8(±0)

※()内は昨年度比

■結果概況

●偏差値は昨年度の偏差値を上回ることができなかったが、目標値は全ての領域で上回っている。

□課題と対策

●言語活動に関する設問の正答率が低く課題がある。

→ 説明的文章の指導においては、順序よく詳細に読解するという指導や教師の解説に終始する指導ではなく、目的に応じて内容を整理する、必要に応じて引用する、複数の資料を比較する、別の言葉で言い換える、等様々な活動を設定する。

社会

知識	活用
50.5	49.5

※H29調査で初めて実施

■結果概況

●観点が「社会的な思考・判断・表現」に当たり問題種別が「活用」に当たる問題で、正答率が目標値を7~8ポイント下回っている。

□課題と対策

●情報を取り出し、取り出した情報の比較や傾向の抽出、結果等に関連付けて書くことに課題がある。

→ 情報のインプットとアウトプットができるよう丁寧に指導する。

→ 社会の中にある情報を自分と結び付けて考えることができるように指導する。

数学

知識	活用
50.3(±0)	50.3(-0.1)

※()内は昨年度比

■結果概況

●「図形」・「資料の活用」領域において、偏差値50を下回っている。※「図形」領域は目標値も下回っている。

□課題と対策

●「数学的な表現を用いて説明すること」に課題がある。

→ 児童生徒に、「数学的な表現を用いて説明する力」を身に付けさせるためには、日頃の授業の中で、『説明の基本形』を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせるようにする。

『説明の基本形(例)』

- ①考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。
- ②取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③答えにつながる計算や説明を行う。
- ④答え(結論)を導き出す。

※①~④に基づいた説明ができるように発達段階に応じた指導を行う事が大切である。
※説明を聞きながら、他者の足りない点(例えば①又は②)に気付くようにする。

理科

知識	活用
50.8(-0.6)	50.2(-0.4)

※()内は昨年度比

■結果概況

●小学校5年の時と比較すると、上位層の生徒が減少し中・下位層の生徒が増加している。

□課題と対策

●課題解決に向けて、見通しを持って思考を進めていく学習指導に課題がある。

→ 「何のための観察・実験」、「何を求めての観察・実験」なのかを意識し続けさせるようにする。

◆予想を確かめる実験を計画したり、目的意識をもって観察・実験を行ったりできるようにする。

英語

知識	活用
50.0(+0.1)	49.8(-0.4)

※()内は昨年度比

■結果概況

●「場面に応じて書く英作文」では、無解答率が30%を超えている問題がある。

□課題と対策

●実生活に関連した課題などを通じて動機付けを行い、生徒の学びに向かう力の育成に課題がある。

→ 「読むこと」「聞くこと」を通して得た知識等について、生徒自身の体験や考えなどに照らして、「話すこと」「書くこと」に結びつけるよう指導する。

→ 教材をそのまま解釈するのではなく、生徒の実生活に落としこむような提示の仕方を工夫する。